

特集2 2009年度 都市研究プラザ・プラザウィーク

SPECIAL 2 The PLAZA WEEK 2009

都市研究プラザは2007年にグローバルCOE拠点に選定され今年4年目となる。厳しい経済社会情勢のもと、貧困や排除問題が各地から報告され、我々の研究活動への社会的期待は高まっている。そこで、2009年度のプラザウィークはグローバルCOEのテーマ「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」そのもので設定した。具体的には、2010年1月18日(月)～22日(金)、現場プラザをベースにユニット横断的な研究交流活動「アクション・リサーチ」を「ドキュメンテーション」することによる、学知と実践知の「相互変容のプロセス」を共有できる「場」の設定を中心に据えた。

■日本橋－龍王宮－天神橋(1月18日)

初日は「大坂/大阪の歴史文化遺産と都市の周縁性」をテーマに、フィールドワーク(以下、FW)①②、そして座学の3部構成で行った。まず、FW①では、山下・藤井(G-COE特別研究員)、そして八木滋氏(大阪歴史博物館学芸員)の案内で、生國魂神社、旧長町、千日前周辺の順に各地区の歴史的痕跡を辿った。FW②では、済州島出身者の祈りの場とされる龍王宮で、本岡・宮下(G-COE特別研究員)から歴史的背景及び現状についての説明がなされた。そして、水内(都市研究プラザ副所長)による長柄周辺の説明を聞きながら大淀プラザまで移動した。座学では、近代における長柄・本庄地区の方面委員制度についてポーター(G-COE特別研究員)による報告が行われ、それを受けて水内と塚田(文学研究科教授)によるコメントと議論が行われた。



桜ノ宮龍王宮でフィールドワークする

■阿波座－西成(1月19日)

2日目は「起業と企業」をテーマに、2部構成で行われた。前半は、岡田(クリエイティブセンター阿波座研究補助スタッフ)より、「創造産業における起業と持続を促す都市環境」について報告が行われた。後半は西成区に移動し、水内の案内で木造住宅密集地区を回りながらFWを行った。(株)ナイスの佐々木敏明氏・田岡秀朋氏による「くらし応援室」

や「楽塾」の活動紹介、そして長橋小学校では、若松(G-COE特別研究員)の案内で空き教室を活用した製靴塾の視察を行った。最後に、レストラン・ピアノで、様々な形で地元コミュニティに根付いた社会的企業を展開している(株)ナイスの富田一幸氏(代表取締役)から西成区の現状とコミュニティ企業の役割についての講演と、参加者の自由討論が行われた。



長橋小学校の空き教室を活用した製靴塾の取り組みを聞く

■豊崎－阿倍野(1月20日)

3日目は「生活文化・包摂」をテーマに行われた。豊崎プラザでは、改修済みの長屋と改修前の長屋を見学した。その後、黒木・川口・綱本(都市研究プラザ研究補助スタッフ)、葛西・平川(G-COE特別研究員)らをリーダーに、3つのチームに分かれ、豊崎・中崎町地区、阿倍野地区の住宅地を観察、写真撮影を行った。その後、佐藤(都市研究プラザ特任講師)の司会により、阿倍野プラザでプレゼンを行った。その内容は、専門領域を反映して多岐に渡り、プラザウィークがめざす「ユニット横断的な研究交流活動」の試みとして有意義であった。その他、阿倍野地区在住の郷土史家と長屋を改造し居住している建築家から報告があった。また、豊崎地区の歴史についても深田(G-COE特別研究員)より報告があった。いずれも、現場プラザにおける「市民知とのふれあい」を実体験する機会となった。



長屋が残るまちかどで魅力を発掘する

■カマメー船場—大淀(1月21日)

4日目は「アートと社会包摂」をテーマに、現場プラザ3ヶ所をめぐる企画であった。初めにカマン！メディアセンター(カマメ)にて、企画者である上田假奈代(都市研究プラザ研究補助スタッフ/NPO法人こえとことばとこころの部屋)と原田麻以氏(カマメ)より、たちあげからの活動の様子、実践が報告された。次に船場アートカフェでは、高岡(都市研究プラザ特任講師)と嘉名(工学研究科准教授)より、「船場建築祭」「まちのコモンズ」等のとりくみが紹介された。地域社会で大学が働くことの意味、またアートが社会を媒介する作用について、映像も交えて分かりやすく提示された。最後に大淀プラザでは、音響とダンスによるパフォーマンスが披露された。参加者たちをも巻き込むダンサーの身体表現に、身体も頭もほぐされる時間となった。その後、議論が行われ、いつになく芸術の本質にかかわる自由な言葉が発せられた。



カマン！メディアセンター(カマメ)の活動に学ぶ

■@高原記念館・ワークショップ

最終日は高原記念館にてパネルディスカッションが行われた。開始前に、佐々木雅幸所長より期間中活躍した研究員への表彰と、プラザウィークのドキュメンテーション上映が行われた。続いて、現場プラザで活動している研究員(西成:蓬菜、阿倍野:黒木、船場:高岡、豊崎:深田、大淀:堀江)によるプレゼンテーションにより論点が惹起され、それを受けてパネルディスカッションでは活発な討議が繰り広げられた。パネルディスカッションでは北川(G-COE特別研究員)が新たに参加し、これまでの発表を論評するという形式で議論の口火が切られた。これに対して各発表者が各現場プラザからの視点と個人的見解を述べ、活発な議論へと発展した。また、福本(G-COE特別研究員)は、北川が呈示した概念である“social involvement”の学問的可能性について力説した。

■まとめ

午後のF Wと夜の座学、そしてそれに続く懇親会を通じた活発な議論の場の設定と各現場プラザをふんだんに使いこなしながら行ったユニット横断的な交流は、今回のプラザウィークにおける最も大きな特徴と言えよう。さらに加えると、アウトプットのみを想定せずに、それぞれの研究領域を横断することで生じるシナジーをプロセスに落とししていく、実験の道場としての「プロセス・ドキュメンテーション」という新たな実践的手法論の意義を確認できたことも大きな成果の一つとしてあげられよう。今回のプラザウィークでは、現代都市が抱えている新たな問題(社会的排除)に対抗し、このような試みを行うひとつの実験場を設けるという意図もあった。今後はこのような「新たな関係形成を導くプロセスを構築する場」の含意をどう活かしていくかが課題である。

■全泓奎(都市研究プラザ准教授)

本岡拓哉(都市研究プラザ特別研究員)

辻堅太郎(所長アシスタント・R A)

佐藤由美・櫻田和也・堀口朋亨(都市研究プラザ特任講師)

The theme that was decided on in planning for this year's Plaza Week was the G-COE theme itself, "Reinventing the City for Cultural Creativity and Social Inclusion." Specifically, utilizing the field plazas and based on the results up until now, through 'documentation' of the 'action research' activities across all the units, it focused on establishing a 'place' or venue for sharing the 'mutually transforming process' of academic knowledge and practical wisdom. On the first day, following the theme of "Osaka's Historical and Cultural Legacy and Urban Marginality," walking tours and study sessions were held in the Nipponbashi area, Ryuoukyu, and the Nagara area, and time was set aside for considering urban marginality. On the second day, taking the theme of "Entrepreneurship and Social Enterprise," we walked to the Creative Center Awaza and Nishinari inner city area, and there time was allotted for interacting with people actively engaged in various forms of social enterprise that have taken root in the district. On the third day, with the theme "Living environment and Inclusion," from the Toyosaki Plaza we walked through Toyosaki, Nakasaki-cho, and Abeno districts, observing the neighborhoods, and finished with a workshop at the Abeno Plaza. On the fourth day, with the theme of "The Arts and Social Inclusion," we held exchanges with people active at the Kaman! Media Center(KAMAME), the Senba Art Cafe and the Oyodo Plaza. On the final day, a panel discussion was held at the Takahara Hall. The outstanding feature of this year's Plaza Week was that exchanges were conducted across all the units, fully taking advantage of each of the field plazas. The work for the future is how to effectively include this idea of "venues for constructing a process that leads to the formation of new relationships."